

平成 28 年度  
地域の“まちづくりびと”養成講座  
(入門編)

第 1 回

## まちの**スキ**の育て方 創造的都市まちづくりを考えよう

『こんなまちづくりがいいな』

日時：平成 28 年 6 月 19 日 (日)  
時間：13 時 30 分～17 時 00 分  
場所：名古屋市市民活動推進センター



中区栄にある名古屋市市民活動推進センターにて、「平成 28 年度地域の“まちづくりびと”養成講座（入門編）」の第 1 回講座を開催しました。

今回は、中区役所と共催し、名古屋市市民活動推進センターの協力のもと、住民主体のまちづくりを実践している地区として全国的に有名な中区錦二丁目界限を舞台に、まち歩きやワークショップなどを通してファシリテーションや合意形成の手法を学び、体験する全 5 回の講座です。



講師は、NPO 法人まちの縁側育くみ隊 事務局長の名畑恵さんです。企画・運営は、都市センターの養成講座修了生である「まちづくりびと」と講師、中区役所、名古屋都市センターで構成される実行委員会で行います。

### ■ 開講

始めにスタッフの紹介や資料説明を行ったあと、講師から、自身が NPO 法人まちの縁側育くみ隊のスタッフとして錦二丁目で行っている“まちの会所”についての解説と、講座全体の内容、当日の進め方についての説明があり、講座はスタートしました。



講師の名畑さん

### ■ 座学「こんなまちづくりがいいな」

講師による講義「学習から実践へ～全国のまちづくりびと紹介～」では、自身が関わった 4 つの事例が紹介されました。

一つ目は、昨年度に行った講座の修了生や北区役所などが企画した「名古屋城脱出！隠密まち歩き」について、二つ目は、滋賀県東近江市の重要伝統的建造物群保存地区で行った、次世代にまちを繋いでいくための子どもを対象としたまち探検などの取組みについて、三つ目は、島根県で行った自宅の一部を地域の居場所として開放する取組みについて、四つ目は、制度で行き届かない若者支援の隙間を埋める取組みについて、スライドの写真を参照しながら語られました。

続いて、錦二丁目の再編のビジョンを描く「錦二丁目まちづくり構想」についても触れられていました。

次に、錦二丁目まちづくり協議会の会長 堀田勝彦さんに、錦二丁目について話して頂きました。ここでは、事前に用意した 12 のキーワード「生まれた町だから」「アート」「人」「地縁」「つなぐしくみ」「再開発」「まちの将来像」「原動力」「資金」「持続の力」「空きビル?」「えびす祭」の中から選ばれたものについて、堀田さんが話をする形で進められました。



錦二丁目まちづくり協議会 会長の堀田さん

まず始めに、講師が選んだ「えびす祭り」について、繊維業で賑わっていたかつての姿からは想像できないほど寂れた錦二丁目に対する危機感から平成 12 年に始めた「長者町 50 年祭」がスタートになったと、堀田さん自身の思い出を交えて語られました。続いて受講生が選んだ「再開発」については、地域で作成した「錦二丁目まちづくり構想」がデベロッパーの計画に反映されていることなどが説明されました。最後に選ばれた「アート」については、第 1 回あいちトリエンナーレから錦二丁目界隈が会場になっている事に関して、地域が行っている工夫や、それによって多様な担い手が活躍する結果に繋がっていることなどが語られました。

## ■ アイスブレイク・グループ分け

アイスブレイクとして、参加者が声を出さずに身振り手振りでお互いの誕生日を確認し合い、1月1日から12月31日まで順番に並ぶバースデーリングというゲームを行いました。



ここで並んだ順に5グループに分かれたあと、ワークショップを行いました。

## ■ ワークショップ①「印象を分かち合おう」

ワークショップ①は、「自己紹介カード」に記入した内容を元に、自己紹介や座学の印象を発表してお互いに理解を深め合いました。その後、グループファシリテーターを務めるまちづくりびとの進行のもと、グループを紹介するシートを作成する作業に移り、自己紹介で分かったお互いの共通点などから考案したグループ名や、メンバーの印象や思いなどを記入して、シートを完成させました。



### グループ名称

- 1班 「YGS8」
- 2班 「そもそも長者町ってな～に？」
- 3班 「TEAM いいな」
- 4班 「風車」
- 5班 「つなげるチーム」

### ワークショップで作成したシート（1班）





## ■ ワークショップ②「こんなまちづくりがいいな、ビジョンシートをつくろう」

ワークショップ②は、「ビジョンゲーム」を行いました。このゲームは、まずテーマに対して用意された数枚の写真の中から、参加者がそれぞれ一番好きなものを選び、その写真を選んだ理由について語ります。その後、各自が選んだ写真のイメージを繋ぎ合わせて各グループで一つの物語をつくっていくというものです。



ワークショップ②では、①でグループファシリテーターが行っていた「司会進行」「時間管理」「記録」の役割が受講生に割り振られ、受講生はそれぞれの役割を考えながらグループワークを進める体験をしました。

また、お互いのイメージを共有し合いながら一つに集約させる「ビジョンゲーム」の作業をとおして、まちづくりにとって大切な合意形成のコツを学びました。

## ■ 発表（全体共有）

ワークショップの成果をグループごとに発表し、考え方やまとめ方の違いを共有しました。どのグループも、写真を切り抜いてシートに貼ったり、イラストを描き加えるなどして物語がイメージしやすいよう工夫されていました。発表も、グループ全員で協力して話し合った成果を伝えるなど、賑やかで楽しいものとなりました。



### 「YGS8」

“まちの宝箱”こんなまちにしたいをテーマに、まちの中に残っているものに注目して活かすまちづくりを考えた。



### 「そもそも長者町ってな～に？」

祭から個人まで幅広い取組みが合わさることで、皆にとって住みよいまちになっていくのではないかと考えた。



### 「TEAM いいな」

リノベーション、お金という点からまちを捉え、まちづくりにおいて、「人」がまちに集まることの重要性について考えた。



### 「風車」

長者町に長く住む老人の視点から、昔の賑わいを懐かしみつつ30年後のまちの様子についても考えた。



### 「つなげるチーム」

“つながる”をテーマに、まちづくりにとって最も大切な土台づくりの「うら」と「おもて」を考えた。



同じ写真でも、選び方やそれぞれのイメージの違いによって、グループごとに全く異なる物語が出来上がり、受講生は各グループの発表に熱心に耳を傾けている様子でした。

## ■ まとめ

講師による講座の振り返りがキーワード形式で行われました。

- い 負の課題、危機感をエネルギーに
- る 縷々思い出と歴史、思いを伝えるために「見える化」をしよう！
- さ さみしさも、喜びもわかちあう心の底からのつながりづくり
- と とにかく私からはじめる！言いだしっぺになろう！
- と 途方もない夢も叶う！20年後、50年後を見据えたまちづくり
- お 女の人も子どもも高齢者もノラ猫もスミレも多様な担い手で
- も もう一歩を踏み出そう！小さいことからまちを宝箱／なんといっても楽しさは持続を生む
- え 縁や古いビルなど地元にあるものを生かす視点で！
- る ルーズな集う場の育みで心の底から笑える場を
- ま まるで田舎のような都市をつくる！—まち中グリーン・畑を！—
- ち 違いはチャンス！見事な合意形成をやったのけた！

また、キーワードの頭文字をつなげて読む頭韻要約法を用い、「故郷と考えるまち」とまとめました。

最後に、次回講座の案内、アンケートの記入を行い、全員で会場の片づけをして第1回の講座を終了しました。